

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(度会町)の概要

1月19日(日)に度会町の蓮華寺で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「度会町地域資源を守る会」の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容の紹介や今後の課題などについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

(活動内容紹介)

- 守る会は、平成23年10月に県の物語おこしプロジェクトに企画提案し、選定されたことから活動を始めた。度会町は倭姫命の巡行の場所であり、信仰の場となっているところがたくさんある。
- 小学校、中学校、高校との連携もこの会では行っている。私たちは本当に発奮して、いろいろなことをしている。

Q：活動していてよかったことや自慢できることは、どのようなところか。

- 度会町には、歴史的人物で水田のために堰の設置や池の造成に貢献した3人の人物がいる。小学校の3、4年生の副教材にそのことが掲載されていて、去年、小学校

の校長からその3人の話をしてほしいという依頼があり、児童に話をした。

遠足で小学校3年生が注連指(しめさす)の観音堂を見に行く際に、学校から説明を頼まれ、児童に資料を配り説明した。後日、学校から児童が書いた感想文をもらったので、私からもお礼の手紙を送った。他に高校からも説明の依頼が同じようにある。

活動を地域住民や児童、生徒にも知っていただくことが生きがいである。度会町では春と秋に町内のぶらり旅を企画しており、守る会のメンバーが地域の説明をしている。町外からも人が来てくれて案内をすることが多く、人と触れ合うことが一番大事である。常に生徒から学ぶ、親から学ぶという「学ぶ姿勢」が大事だと思うので、みなさんから学びながら、自分でも調べて活動をしている。

老人会に入ってこの活動をするまでは、歴史への関心は薄かった。小学校や高校から、度会町に赴任してきたばかりの先生に、歴史の説明をしてほしいと頼まれる。学校だけでなく地域の人にも歴史を勉強してもらいたいと思っている。

南伊勢高校の度会校舎では、生徒と一緒に活動しやすい雰囲気がある。高校生との触れ合いも大事だと思う。

江戸時代に119年間生きておられた和尚がいて、漢文で書かれた資料が残されている。最近ではテレビでも放送され注目された。この方が書いた長寿の秘訣5か条が脈々と伝わっている。「朝、大量に水を飲む」「太陽に向かって、100回深呼吸をする」「食べ物の好き嫌いをしない」といったことが秘訣として書かれている。90歳の時に下駄で毎日、15kmの道のりを歩いて、棒を杖にしては、時々振り回して体操していたそうである。当時は有名な和尚であったそうで、知事には宣伝をお願いしたい。

御頭神事には、昭和35年から運営に携わっており、この先、神事が末永く続くことを願っている。今から360年ほど前の江戸時代から始まり、県の文化財に指定されている。無病息災、五穀豊穡を祈願して行われている。神事がなくても構わないという若い人の声もあるが、神事を続けていくために、芯となる部分は残して、幅広い世代の意見を聞きながら、改善することも検討している。

地域に貢献することはないか考えて、宮リバー度会パークの植物に名札を付けようということになり平成23年から活動を始めた。「美し国おこし・三重」に参加して、専門家派遣を受けることができたので助かった。平成23年から木に字を掘る講習などを受けて、名札をつける作業を行った。平成25年は植物の見本園に札を立てることにした。野草の場合は季節ごとに取り替えていく必要があるので管理は大変であったが、メンバー同士で助け合いながら130枚くらい名札を付けることができた。少しでも地域に恩返しができると思う。

火打石は県天然記念物に指定され、幅3.4m、高さ2.3m、奥行き2.6mの塊状の岩で、第11代垂仁天皇の皇女「倭姫命」が発見したという伝説があり、古くは毎年、伊勢神宮に奉納したと言われている。地質的には秩父古生層のもので、中世代ジュラ紀の秩父地向斜が隆起してできた堆積岩である。今から2億5千万年前のものであると推定されている。

式年遷宮では、ほとんど川口にある萱場の萱を材料として使っている。地元で百町分くらい管理しているが、入口に鍵がかかっており、伊勢神宮に許可を取ってから

入るようになっている。

800年前に大蛇が出たときに、五輪堂を建てて、大蛇を封じ込めたということが伝わっている。毎月老人会で五輪堂の掃除をして、大蛇に飲まれた方のお祈りをしている。

乙女岩は倭姫命が立ち寄ったと言われている。山頂に位置し高さ36メートルで、面積が5㎡もある大きな岩であり、たくさんの方が訪れる。

川上の清水と言われる湧水があり、水を汲みに来る人が町内だけでなく伊勢市や明和町などから毎日のように来ている。川上は自然が豊かなところである。

脇出という集落に一之瀬城址があり、城の跡が今も少し残っている。南北朝時代、後醍醐天皇の皇子である宗良親王は和歌が上手く、和歌を約900集めた『李花集』というものがある。宗良親王が在城されたということが明治時代になって分かった。昭和6年に県が碑を建ててくれたが、地元の人にはどんな価値があるのかわからない方がたくさんいたことから、一之瀬城址を守る会を昨年作った。城にまつわる遺構がたくさん残っているので、表示板や見学用の道路を整備するなどしていきたい。

城跡にまつわるものとして、一之瀬獅子神楽が毎年2月11日にある。一之瀬城の城主である愛洲氏が、本拠地を五ヶ所へ移す時に、一之瀬城の守り神であった4つの御頭のうち3つを地元へ分け与えて、五穀豊穰、家族の健康を祈ったとされ、その時から始まったと言われている。毎年、一之瀬神社の境内で行われているので、もし時間があれば案内をさせていただきたい。古くから残っているので自慢である。今まで地域を調査した資料を作ってきたが、冊子にして集大成となるものをつくりたい。町では対応が難しいので、冊子を作る費用をお願いしたい。

度会町は歴史が古くて、いろいろなものがあるので、いろいろなことを掘り起こしていきたい。やる気を出すことが大事で、行政もやる気を出させることが必要だと思う。そういう面で知事には発破をかけてほしい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

江戸時代に119年間生きておられた和尚のような長寿ということは売りになると思う。健康で長く生きたいとみんなが思っていることなので、長寿の秘訣5か条とともに宣伝したい。

御頭神事を世代間で縦に引き継いでいくことに加え、地域の人など横に繋いでいくという役割もあると思うので大切にしていきたい。

時間があれば、もっと聞きたい話もたくさんあって、勉強になった。学校の先生をされていた方も多いということで、社会の授業を受けているみたいで良かった。本当にたくさんの資源がこの地域にはあって、みなさんの深い思い入れを強く感じた。民間の調査によれば、自分の地域のことが好きな人が多いほど、地域外からも人がたくさん来るとされている。自分の地域を好きになることが大事だと思っているので、まさにみなさんはその先頭に行っていると思う。みなさんが、長寿で元気に頑張っていることを応援させていただきたい。



【度会町地域資源を守る会の皆さんとは】

「度会町地域資源を守る会」は、宮川・一之瀬川流域の歴史の調査・研究や住民への普及啓発等を通じて、地域資源の付加価値を高め、元気な地域づくりにつなげることを目的に活動を行っている皆さんです。